

ZOOM  
UP

# ワールドマスターズゲームズ オークランド大会に学ぶ

2019年ラグビーワールドカップ日本大会、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に続き、2021年には、関西地域においてワールドマスターズゲームズが開催される。日本ではまだ聞きなれない大会だが、4年ごとに開催され、2万人規模の選手を動員する大規模国際スポーツ大会である。本特集では、4月に開催されたワールドマスターズゲームズ2017オークランド大会について報告するとともに2021年関西大会開催に向けた取り組みを紹介する。

〔(一財)自治体国際化協会シドニー事務所〕

1

## ワールドマスターズゲームズとは何か

(一財)自治体国際化協会シドニー事務所 所長補佐 島田 菜々子 (神戸市派遣)

### 大会の概要と歴史

ワールドマスターズゲームズ (WMG) は、スイスに本部を置く国際マスターズゲームズ協会 (The International Masters Games Association) によって開催されるマスターズ (概ね 30 代以上) のための国際的なスポーツ祭典であり、「スポーツ・フォア・オール (全ての人のためのスポーツ)」の精神の下、最少年齢要件さえ満たせば誰でも出場することができる。

WMG は国際オリンピック委員会との協定の下、ここ四大会については、四年ごと、夏季オリンピックの翌年に夏季大会と冬季大会 (2010 年以降) が開かれ、パラスポーツ大会も並行開催される。夏季大会は 1985 年のトロントでの初開催から 2017 年オークランド大会で 9 回目を迎え、記念すべき第 10 回大会は 2021 年に関西地域において開催されることとなっており、WMG 史上初のアジア開催となる。



バレーボール会場

WMG の主な特徴は以下のとおり。

- ・各競技における年齢要件 (原則 30 歳以上) を満たせば、プロ・アマ問わず誰でも参加することができる (ただし、世界選手権大会も兼ねるウエイトリフティング、オリエンテーリングを除く)。

- ・選手は、資格や選抜大会などへの出場を要求されない。
- ・選手は、あくまで個人として参加を行う。国家代表ではない。
- ・団体スポーツについては、複数の国で1つのチームを構成し参加することができる。
- ・選手用宿舎（いわゆる選手村）はなく、各自で航空券や宿泊先を確保する。
- ・開催地（ホスト）は、国際マスターズゲームズ協会が定める16のコア競技<sup>(注1)</sup>に加えて、オプション競技として、今後国内外において生涯スポーツとして促進したいと考える競技を行うことができる。
- ・試合は5歳または10歳ごとに区切られた年齢層別に行われ、各年齢層別に金・銀・銅メダルが授与される（チーム競技の場合は、原則最年少者の年齢区分に出場する）。
- ・年齢別に加えて「オープン（上級者）」、「コンペティティブ（中級者）」、「レクリエーション（初級者）」とグレード別に開催される競技もある。

WMG 夏季大会は9回中7回が北米およびオセアニアで開催され、2万人規模の選手が参加している。いずれの大会においても米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドからの参加者が多い。日本からも200人程度が各大会に出場しており、全ての大会に参加している日本人選手もいる。

開催年度	開催地（国）	参加者数
第1回 (1985年)	トロント (カナダ)	8,305人
第2回 (1989年)	ヘアニング (デンマーク)	5,280人
第3回 (1994年)	ブリスベン (豪州)	23,659人
第4回 (1998年)	ポートランド (米国)	11,400人
第5回 (2002年)	メルボルン (豪州)	24,886人
第6回 (2005年)	エドモント (カナダ)	21,600人
第7回 (2009年)	シドニー (豪州)	28,676人
第8回 (2013年)	トリノ (イタリア)	18,291人
第9回 (2017年)	オークランド (ニュージーランド)	28,571人

## WMG2017 オークランド大会の概要

WMG2017は、初のニュージーランド開催となった。概要は以下のとおりである。

- (1) 開催期間：2017年4月21日～30日（10日間）
- (2) 大会テーマ：For the Love of Sport
- (3) 主催：WMG2017 組織委員会
- (4) 開催場所：オークランド市、ワイパ市
- (5) 競技数：28競技（内オプション競技12競技）
- (6) 会場数：48会場（内2会場がワイパ市）
- (7) 参加者数：2万8,571人（選手2万4,905人、サポーター3,666人）
- (8) 参加国数：106カ国・地域（内ニュージーランド約1万1,000人、豪州約7,000人、カナダ約2,000人、米国約1,200人、日本約300人）
- (9) 最多参加者層：40・50代（最年少者25歳、最年長者101歳）
- (10) 上位参加者競技：サッカー、陸上（各約2,000人）、ソフトボール（約1,800人）、水泳、オリエンテーリング（各約1,700人）、バスケットボール、ホッケー（各約1,400人）
- (11) ボランティア数：約3,200人

オークランド大会では、ニュージーランドの文化を参加者と共有することを目指し、大会ロゴには先住民マオリの伝統的な渦巻きデザインが使用され、オプション競技にはローンボウルズやネットボールなどニュージーランドらしい競技が選ばれた<sup>(注2)</sup>。

同時開催されたパラスポーツ大会では、過去最大の11競技が競われ約60人が参加した<sup>(注3)</sup>。

## 開催運営における特徴

開催を主催した有限責任会社 WMG2017 組織委員会は、オークランド市の公企業エーティード（ATEEDーオークランド観光イベント経済発展公社ー）により設立された。

大会運営費は、オークランド市からの出資1,175万NZドル（約9億1,650万円）、ニュージーランド政府からの出資1,100万NZドル（約8億5,800万円）、WMG2017 組織委員会自体の収益1,310万NZ

ドル<sup>(注4)</sup>(約10億2,180万円)をもって、計3,585万NZドル(約27億9,600万円)が確保された。

大会ボランティアは、大会開催の14カ月前(2016年2月)より募集され、面接により約3,200人が選ばれた。ボランティアは事前の全体研修、部門別研修を受け、約2,100人(66%)が各競技会場のボランティア、約960人(30%)が参加証発行や交通情報案内、閉会式やメダル授与式などの競技以外のボランティアにあたった。また、技術ボランティア(約60人)や医療ボランティア(約60人)も配置された。

参加者2万8,571人の参加証の受け取りは、開催5日前の4月16日から最終日(30日)まで行われた。前大会まで行っていた参加証用の写真撮影を廃止したことで、受け取りの待ち時間を平均15分以下に短縮した。

オークランド大会では、大会史上初めて過去の大会出場者のデータベースを作成しダイレクトメールを送信したり、3種類の参加料を設定することで集客の工夫を行った。また、各競技団体に実質的な競技運営を委託し、効率的でプロフェッショナルな大会運営を目指した。この点に関しては、詳しくはATEEDによる寄稿(5ページ~)をご覧ください。また、オークランドから150km離れ、遠隔開催地となったワイパ市は、大会を最大限活用し、地域の活性化や観光PRを行っている。詳しい取り組みについては、10ページ以降をご覧ください。



参加証発行会場のボランティアスタッフ

## オークランド大会を通じて

国際大会というと、華やかな一方、緊張感のある祭典のイメージがあるが、今回オークランド大会を視察し、

なにより印象的だったのが選手もサポーターも偶然通りかかった地元の人たちも、みな和気あいあいとスポーツを楽しんでいることであった。年齢も国籍も競技レベルも関係なくスポーツを通じて交流し、お互いを声援し、お互いを称え、気持ちよく試合をする。まさに生涯スポーツの真骨頂を見ることができた。

国際マスターズゲームズ協会のホルム(Kai Holm)会長は、WMGの開催地として関西を選んだ理由の一つは、高齢化率の高い日本において生涯スポーツを普及しソーシャルインパクトを与えるためだとしている。東京オリンピック・パラリンピックが終わりスポーツへの気運が高まっている2021年、誰もが主役になれる国際大会が関西にて行われる。世界中の人々が集まりみんなで生涯スポーツを楽しむ日がやってくるのが期待される。



遠泳のメダル授与式にて受賞を喜ぶ選手たち

(注1) アーチェリー3種、陸上競技3種、バドミントン、バスケットボール、カヌー8種、サイクリング5種、サッカー、漕艇、射撃、ソフトボール、スカッシュ、水泳2種、ホッケー、オリエンテーリング3種、卓球、ウェイトリフティング

(注2) その他のオプション競技は、野球、ゴルフ、ラグビー、セーリング、ライフセービング、テニス、タッチラグビー、トライアスロン、バレーボール2種、水球

(注3) アーチェリー、陸上競技、バドミントン、カヌー2種、サイクリング、ローンボウルズ、漕艇、水泳、卓球、テニス、トライアスロン

(注4) 選手登録料850万NZドル、スポンサー料460万NZドル

## 2

## ワールドマスタースゲームズ 2017 オークランド大会に向けた綿密な計画

ATEED (オークランド観光イベント経済発展公社) Graham Skellern (グラハム・スケラーン)

※ATEEDはオークランド市の観光・イベントに携わる公企業で、WMG2017組織委員会を設立し、WMGの運営にあたった。

「史上最高の大会」  
それは最高の褒め言葉

2万8,500人以上の選手とサポーターがWMG2017のため、ニュージーランドのオークランドに集結した。選手たちは熱意をもって戦い、市内クイーンズワーフのエンターテイメントハブで閉会を祝い、充足感のなかオークランドを後にした。

国際マスタースゲームズ協会ホルム会長は閉会式において、「オークランドは本大会において求められたすべての専門的水準を満たし、WMG史上、最も素晴らしい開催地だった。」と表明した。また閉会式の参加者に向けて「私たちはこの美しい国において、新たな友人により温かな優しさをいただきました。特に大会を本当に素晴らしいものにしたのは、ボランティアの方々です。この大会を史上最高のものにしていただき、ありがとうございました。」と讚えた。

4月21日から30日にかけて行われたWMG2017は、この10年間でオークランド市とニュージーランド政府が主催した最大の総合競技大会である。10日間にわたるこのスポーツイベントは、106カ国から2万4,905人の選手と3,666人の競技に参加しないサポーターを集めた。選手数は夏季オリンピックの3倍以上にあたる。大会では、28競技がオークランド市とワイパ市にある48カ所の競技場において行われた。

本大会には、25歳から101歳までの選手が参加し、元オリンピック選手やコモンウェルスゲームズのメダリストも一般競技者と肩を並べて参加した。参加者はみな生きる力に溢れ、生涯を通じて健康で活動的であろうと考える人々である。「全ての人のためのスポーツ」というWMGの精神が全てを中心にあり、各競技が設定する最少年齢要件が唯一の参加条件となっている。

参加者はWMG2017組織委員会の掲げた目標数を超え、2万8,500人に及んだ。参加者数は、ニュージーランド(1万1,000人)、豪州(7,000人)、カナダ

(2,000人)、米国(1,200人)の順に多く、英国、ロシア、スウェーデン、日本、フィンランド、ドイツからそれぞれ200～500人程度が参加した。そのうち、男性参加者は53%、外国からの参加者は50%以上を占めた。

選手はイーデンパークで行われる開会式に向けてオークランドに到着し、参加証発行会場であるクラウドでは作業が混雑や混乱なく行われ、大会は好調なスタートを切った。



最高責任者 Jennah Wootten 氏  
しかし、大会までには4年間をかけた綿密な計画が必要であった。WMG2017組織委員会最高責任者ウトゥン(Jennah Wootten)氏は、「WMG2017は特別なものとなりました。その成功の裏には、競技団体やボランティアがいます。成功は、チーム一丸となって取り組んだ結果です。」と述べる。

「我々は決定を行う際、最も重視すべきは選手だということを常に意識しました。世界規模のスポーツイベント、ソーシャルイベント、世界規模の観光地を売り込んでいたのです。そして、ライフステージにおいて大会に参加するという選択を行った人々をお客様としていたのです。我々は、この大会が成功することは決まったことではないと念頭に置きながら計画を立てて実行にあたりました。その結果、すべてがスムーズに実施され、プロフェッショナルで記憶に残る大会となりました。」

## 開催の契機

ATEEDは、経済開発省(現・事業革新雇用省)とスポー



イーデンパークで行われた開会式では、光とレーザーによる演出が行われた

ツニュージーランド（国の公益団体）による支援のもと、WMGの入札を成功させ、2013年6月にはWMG2017組織委員会をアマチュアスポーツのための非課税となる有限責任会社（Limited Liability Company）として設立した。

運営予算は、オークランド市から1,175万NZドル（約9億1,650万円）、ニュージーランド政府から1,100万NZドル（約8億5,800万円）の投資、WMG2017組織委員会の1,310万NZドル（約10億2,180万円）の収益（選手登録料850万NZドル、スポンサー料460万NZドル）をもって、計3,585万NZドル（約27億9,600万円）が確保された。

大会により3,080万NZドル（約24億240万円）のGDPと24万4,000件の宿泊件数をオークランド市経済にもたらすことが見込まれている。また、ニュージーランド全域においては、5,300万NZドル（約41億3,400万円）のGDPと26万6,000件の宿泊件数をもたらすことが予想されている。この結果と投資利益率に関しては、2017年7月末に判明することとなっているが、現段階で言えることは、海外からの参加者が予想より多く、その多くが滞在中にニュージーランドの他の地域にも観光に訪れたということだ。

オークランド近郊のワイカト地域に位置するワイパ市は、2014年にWMG2017の開催に向けた協力を開始し、漕艇とトラックサイクリングの競技開催地となった。ワイパ市は、開催地を務めることで、観光客数および消費の増加といった経済的な利益を得ることを期待していた。

2013年6月には、ATEEDは技術や専門知識に基づく独立した取締役会を結成し、ウトゥン氏が最高責任者に任命された。

WMG2017組織委員会は徐々に拡大し、結成当初6人であった職員数は大会開催時期には65人となった。この組織委員会は、ウトゥン氏の下、企業統治部、会計・企業サービス部、商業部、スポーツ・大会運営部、通信・マーケティング部、式典・イベント部の6つに分かれ運営された。

## 各競技団体からの素晴らしい協力

WMG2017では、各競技団体との分権的競技運営方式が採用された。これが大会運営の成功の1つだとウトゥン氏は述べている。「WMG2017組織委員会は、中央集権的に大会を開催するのではなく、各競技団体と協定を結びました。各競技団体は、それぞれ大会の開催経験があるエキスパートです。そのため、WMGでも効率よく効果的に競技運営を行うことができました。時の経過とともに、競技団体とWMG2017組織委員会は家族になりました。」

「大会のレガシーは、国レベル、地域レベルの競技団体と協力を行う方法と、その過程において得られた知識です。WMG2017組織委員会は財政的なリスクを背負いましたが、28競技団体は大会の成功に向け、大変努力をしてくれました。我々は、当初より真正なパートナーシップを競技団体と築いてきました。そのため、大会を開催する知識や知的財産はこれらの競技団体と共にあります。各競技団体が、今後も大会による学びや成功体験を共有し続けていくことを願います。」

ウトゥン氏は、100人の海外からのボランティアを含む3,200人のボランティアが大会の「ピットクルー」として集結したことは、誇り高い瞬間の1つだと述べた。「ボランティアに関するフィードバックは極めて良いものでした。大会運営サポートを行うボランティアの役割は極めて重要で、彼らなくして大会は成功しませんでした。ボランティアは式典担当、参加証発行担当、交通担当、競技開催地運営担当などさまざまな業務にあたりました。ボランティアには先住民マオリ族の『マナアキタング』というおもてなしの精神について話し、お客様を温かく親切に迎えるよう伝えました。」

WMG2017 組織委員会はかつてのトップアスリートなどを大会のプロモーション大使として任命した。大使は、時間をかけて大会の規模やマスターズスポーツが世界的に広がりを見せている中での大会の重要性を発信し、大会の強力な支持者になった。



エンターテインメントハブで閉会をお祝いする嬉しそうな参加者たち。テーマは「スーパーヒーロー」

## 参加者獲得に向けた直接的なアプローチ

WMG2017 組織委員会は、競技参加者を集めるためにニュージーランドおよび豪州、カナダ、英国、米国など国内外の国・地域レベルの競技団体からの支援を受けた。

ウトウン氏によると「大会に参加してくれそうな人々に、データベースやニュースレターに登録するよう時間をかけて呼びかけました。これは、『釣りは魚のいるところでやろう』、つまり、まずはマスターズスポーツが盛んな国のマスターズ大会に過去に参加したことがある人々にアプローチしようという戦略でした。」

WMG2017 組織委員会は、異なる参加者層向けにブロンズ・シルバー・ゴールドの3つの異なる参加パッケージを導入した。これは、例えば、地元オークランドの参加者は、公共交通無料パスや観光施設無料パスが参加特典に含まれることにあまり関心はないという調査結果に基づいたものだった。

ブロンズパッケージは、選手用が 295NZ ドル（約 2 万 3,000 円）で、競技に参加しないサポーター用が 145 NZ ドル（約 1 万 1,300 円）で販売された。これには、登録料と開閉会式への参加、エンターテインメントハブでの参加者限定イベントへの招待、WMG2017 の記念リュックサックと大会ガイドブックが含まれていた。

シルバーパッケージは、選手用が 395NZ ドル（約 3 万 800 円）で、サポーター用が 245 NZ ドル（約 1 万 9,100 円）で販売され、ブロンズの特典に加えて、限定Tシャツ、公共交通機関無料パス、観光施設無料パスが含まれていた。

ゴールドパッケージは、選手用が 825NZ ドル（約 6 万 4,300 円）で、サポーター用が 625NZ ドル（約 4 万 8,750 円）で販売され、シルバーの特典に加えて、参加証発行時における優先レーンの使用やエンターテインメントハブでのカクテルパーティーへの招待、ゴールドラウンジの使用、フェリーの無料パスが含まれていた。

「2 万 8,500 人以上の参加者を惹きつけるには、登録制度を簡単にすることが重要なステップとして挙げられます。手順が簡単で完全で、全てのやりとりが一流であることが必要だと我々は常に心掛けていました。」とウトウン氏は強調する。

## 大会による学び

克服すべき最も大きな課題は、オークランドの宿泊施設についてであった。選手は、安価で競技会場に近い宿泊施設を求めていたため、WMG2017 組織委員会は、Airbnb など民泊業者と新たに提携した。

「ホテルや短期滞在用アパートの宿泊費は手頃とはいえ、大会の観客のこと、予算を浮かすために団体が旅行をしているチームが多くいることを考慮してくれませんでした。我々の経験が関西大会で役に立つことを願います。」とウトウン氏は結んだ。

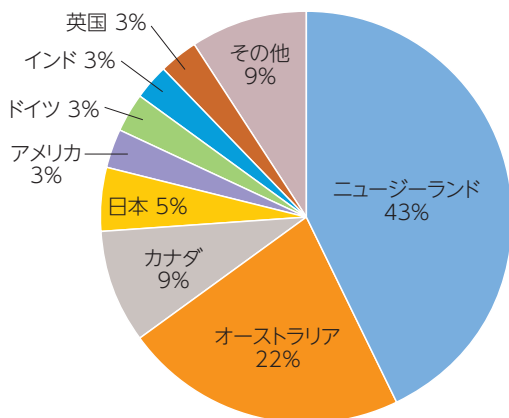


国際マスターズゲームズ協会ホルム会長より関西組織委員会 森詳介会長へ公式フラッグを渡す様子

## 参加者アンケート調査の概要

オークランド大会の開催中に、クレアシドニー事務所では、WMGの参加者・観戦者などを対象にアンケート調査を実施した。調査は、メインハブであるクイーンズワーフ (Queens Wharf) に加え、野球、ローンボウルズ、陸上、ウエイトリフティング、サイクリング、水球、フットボール、テニスの競技会場の計9カ所で117人に対して口頭での自由回答形式で行った。なお、大会事務局の他の機関が公式かつ大規模な調査を行っていると思われるが、独自の速報調査として受けとめていただきたい。

調査は英語または日本語で行ったため、回答者の出身国に一部偏り見られるが、約42.7%がニュージーランド人またはニュージーランド在住者、約21.4%がオーストラリア人、約8.5%がカナダ人であり、その他、日本人、アメリカ人、ドイツ人、インド人など計16カ国の方が回答した。回答者の58人が男性、59人が女性と、男女比はほぼ半々であった。回答者区分は約59.1%が選手、約19.1%が近所等からの観戦者、約16.5%が選手の家族、約3.5%が選手の友人、約1.7%がサポーター (参加料を支払って競技のサポーターとして登録した人) であった。



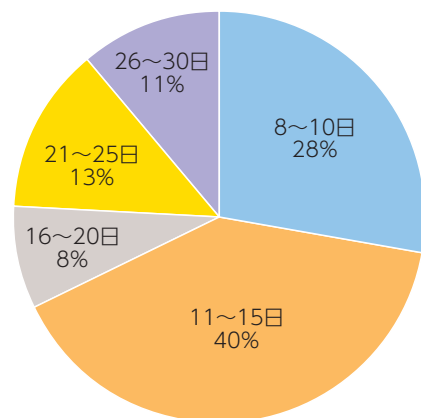
### アンケート回答者の出身国

また、回答者の年齢層は50代～70代が多く、内訳は20代が約5.2%、30代が約11.2%、40代が約13.8%、50代が約17.2%、60代が約28.4%、70代が約

16.4%、80代が約7.8%であった。

## 観光産業への波及効果

海外から参加した選手およびその家族のうち、約71.4%は大会開催期間以外にもニュージーランド国内に滞在する予定であった。平均滞在日数は大会開催地のオークランド・ケンブリッジで約10.9日、オークランド・ケンブリッジ以外も含むニュージーランド全域で約15.3日であり、参加者は平均約4.4日、大会開催地以外のニュージーランド国内に滞在していることがわかる。約11.1%の参加者は約1カ月間、ニュージーランドに滞在する。オークランドはニュージーランドの北島の北部に位置するが、南島まで観光をすると回答した人は約33.9%おり、海外からの参加者1万7,000人の3分の1、約5,700人がニュージーランドの南島まで広域に旅行したと見積もると、ニュージーランドの観光産業に大きく寄与したと考えられる。このことから、関西で行われる2021年WMGでも、一定数の参加者は関東地方等の他地域も観光するものと推測できる。



### 外国人参加者のニュージーランド滞在日数

また、海外からの参加者の約22.4%はWMG参加の理由として、「ニュージーランド旅行の機会になる」と答えていることから、元々観光地として興味を持っており、WMGを観光の機会と捉える人も多かったことがわかる。

一方で、参加者の家族・友人でない観戦者のほとんどが地元住民であり、大会観戦を目的とした人の観光産業

への波及効果は極めて薄いと考えられる。

## 2021年大会開催地の認知度

選手として参加した人のうち、約51.5%が前回までのWMGに参加した経験があり、約77.9%が2021年のWMGに「参加する」または「参加したい」と回答した。このように、WMGはリピーターの多い大会であり、本大会会場での2021年WMG関西大会のPRは効果的なものと考えられる。

調査の結果、次回の開催国が日本であることを知っていた回答者は全体の約68.5%だったが、関西広域連合の2021大会PRブースがあるクイーンズワープ以外の会場だけで集計すると、約57.0%であった。そのうち観戦に来たオークランド在住者の間の認知度が約27.3%に留まり、あまり知られていなかったのに対し、選手では約87.1%の参加者が次回の開催国を正しく答えるなど、広く認知されていた。地名まで回答した人もいたが、うち約18.2%は「東京」と誤答した。本調査は閉会式前までのものであるため、閉会式での関西広域連合への大会旗の受け渡しや、太鼓のパフォーマンスなどで、閉会式後にはさらにその認知度は上がったと考えられる。

## ボランティアアンケートの概要 および結果

大会期間中、WMGのボランティア19人に対しても自由回答形式でのアンケートを実施した。回答者の男女比は6対13であり、平均年齢は約50.3歳だった。回答者のうち8人が60歳以上のボランティアであり、ボランティア参加の理由として「定年して時間があり、スポーツイベントにかかわりたい」というものも見られた。また、ボランティア参加者の約42.1%は、スポーツ大会などでのボランティア経験を有していた。

居住地・国	主催者発表	本調査回答者
オークランド	79%	73.7%
ニュージーランドの他地域	18%	26.3%
オーストラリア	2%	0%
その他の国	1%	0%

### ボランティアの居住地・国の内訳

大会主催者側の発表によれば、海外からのボランティア参加者は約3%いるものの、今回の回答者の中には1人もいなかった。

「2021年WMGでもボランティアをしたい」と答えたボランティアは約52.6%おり、中には「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会でボランティアができなかったら、2021年WMGでボランティアをしたい」という回答者もいたが、2017年WMGのボランティア参加者の約97%が国内参加者だったことを考慮すると、実際の海外からのボランティア参加者数はあまり多く見込めないだろう。

## 所感・まとめ

今回、大会を視察し、2つのアンケート調査を行う中で強く感じたのは、大会参加者およびボランティアの多くが、大会での勝敗だけでなく、楽しむことに重きを置いていたことである。ウエイトリフティングやオリエンテーリングといった、競技の正式な国際大会と認定されている種目がある一方で、国際大会という緊張感がなく、選手各々が競技を楽しみ、競技前後で記念写真を撮るなど、対戦相手と仲良くなることを意識しているような種目もあった。

「なぜWMGに興味を持ったのか」という問いに対して、「競技に関心がある」、「健康維持のため」といった回答に加えて、「楽しいから」、「旅行の機会になるから」、「他の参加者と仲良くなれるから」などの理由が目立ったことから、WMG参加者の性質を理解できる。

2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に続く、2021年WMGの関西圏域での開催は、高齢化社会の中で人々が実際に生涯スポーツに取り組み、楽しむ土壌を築く機会となるだろう。



アンケート調査実施の様子



# 4

## ワイパにマスタースゲームズを招致すること

ワイパ市 情報・参画班長 Natalie Palmer (ナタリー・パーマー)

2017年、オークランド市はWMGを開催し全世界から選手を呼び込んだ。

しかし、この大会が開催されたのは、オークランド市だけではない。実は、2つの重要な競技（トラックサイクリングと漕艇）は、ワイパという小さな地域で行われた。ワイパ市は、ニュージーランド最大の都市オークランドから車で1時間半、ニュージーランド北島の中心部に位置し、5万2,000人の人口を有する市である。ワイパ市でWMGを行うことは、ニュージーランドの標準から見ても、至難に思われた。

WMGに参加した漕艇選手は約1,000人、サイクリング選手は約250人だった。選手たちは、ワイパの見事な自然、美しい町並み、なだらかな農地に恵まれた素晴らしい土地に迎え入れられた。

ワイパは活気があり、生活し働き遊ぶうえで楽しい場所だ。スローガンである「Home to Champions (チャンピオンの故郷)」は、ワイパの国際的競技における驚くべき成功を反映している。この土地は、ワイパ市を故郷とする世界レベルのアスリートを輩出し、育成し、保持することで世界的な名声を得ている。

スポーツにおける世界レベルの成功は地域に広がり、ワイパ市は、ニュージーランドにおいて高いパフォーマンス能力を持つアスリートが多く集まる場所の1つとなった。ワイパ市の2大中心地の1つであるケンブリッジは、世界でオリンピック金メダリストが最も集住する町となった。

### 漕艇とトラックサイクリング競技の開催

2013年、ワイパ市は、WMG2017組織委員会より漕艇とトラックサイクリングの開催を打診された。

その提案は、理にかなったものだった。国レベルで見ると、ワイパ市は、高性能のスポーツ施設への投資を率先して行ってきた。結果として、ワイパ市は、世界レベルの競輪場「アバンティドローム」を誇り、この競輪場



トラックサイクリング開催地「アバンティドローム」

は、以前トラックサイクリングワールドカップを開催している。

さらに、ワイパ市の美しいカラピロ湖は、優れた漕艇コースを有し、世界で最も優れた漕艇競技地となっている。また世界レベルの乗馬施設や、ニュージーランドのスポーツを世界レベルで成功させることを担う団体High Performance Sports New Zealandの拠点がある。

ワイパ市、そしていくつかの地域パートナーは、WMGのワイパ市での開催提案に協力的だった。ワイパ市は、ハミルトン市、ワイカト広域自治体の2つの地方自治体と連携し、9万NZドル（約700万円）をWMG組織委員会に出資した。この出資は、開催提案を支援し、ワイパ市で漕艇、トラックサイクリング大会を開催するために使用された。

### なぜワイパ市は開催をサポートすることにしたか？

ワイパ市は、「チャンピオンの故郷」として、スポーツ、その他の業績を支持し称えている。WMGは、ワイパ市にある世界レベルの施設とその他の観光資源を世界に紹介する機会をワイパ市に与えてくれた。

ワイパ市は、大会が地域コミュニティに多大なる好影響を与えることも認識している。大会やイベントの開催

により毎年何十万人もの訪問者を呼び込み、宿泊施設、小売業、サービス業の需要をかきたてることで、地域に著しい経済的貢献をしてきた。なかでも国際的なイベントは、地域を活性化し、住民の生活を豊かにする機会を与える。オークランド市外での唯一の WMG 開催地になることは、ワイパ市にとって逃したくない絶好の機会だった。

## 大会を最大限活用すること

大会を活用することでワイパ市は WMG が地域にもたらす利益を明らかにし、最大化させることができた。大会を活用した活動は、以下のことを目的に行われた。

- ・ WMG が地域経済に著しく貢献すること
- ・ WMG がコミュニティの尊厳、コミュニティのつながりの構築に寄与すること
- ・ WMG がワイパ市を世界的な舞台に立たせること
- ・ WMG が「チャンピオンの故郷」としてワイパ市の地位を国家的、国際的に確立すること

重要な活用イベントのいくつかは、ワイパ市通信・企画班によって企画され、開催された。

### (1) 地域コミュニティのつながりの構築

ワイパ市は、WMG の参加者イベント兼地域の祭りとして、ケンブリッジ公会堂で WMG 最終日にイベントを開催した。このイベントは、町に、WMG に関与したすべての人々を労う機会を与えてくれた。屋台の出店や出し物、無料のアイスクリーム提供などが行われ、国内外からの訪問者を見送る素晴らしい機会となった。



Match the Masters イベントの様子

### (2) 健康ウィーク

ワイパ市は、WMG と関連し一週間の無料フィットネスプログラム「Match the Masters」を開催した。このプログラムでは、さまざまな団体と提携しヨガ、ピラティス、ブートキャンプなどのアクティビティを無料で提供した。健康ウィークは、住民が楽しく健康になる機会となった。

### (3) 世界の舞台に立つ

WMG 開催中は、オークランドのクイーンズワーフにおいて観光プロモーションを行った。ワイパ市は、地域観光協会ハミルトンワイパツーリズムと連携し、ワイパ市およびワイカト地域の観光プロモーションを行った。

### (4) WMG の宣伝とマーケティング

ワイパ市は、商工会議所および観光インフォメーションセンター (i-site) などと提携し、市内を宣伝幕で彩るとともに、企業への大会周知や協力体制の確保を行った。また、地元の小売業者は訪問者を温かく迎えるために、WMG イベント限定の商品の販売や限定サービスの提供を行った。

これらの活用プログラムは多方面において成功したと思われる。大会の認知度や支持率はとても高かった。現在、WMG がワイパ市にもたらした経済的な影響を図るための公式調査が行われている。

最後に一言。「我々は、WMG の参加者にロックスターになったような気持ちでワイパ市に滞在してほしい。そして、ワイパ市に来なかった人々には、来たかったと思われるようにしたかった！」



トラックサイクリング会場内の様子

## 関西大会の概要

ワールドマスターズゲームズ 2021 関西は、2021年5月15日(土)～30日(日)の16日間、「スポーツフォーライフの開花」をテーマに、関西広域連合を構成する2府6県4政令市(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県、京都市、大阪市、堺市、神戸市)を舞台に開催する世界最高峰の生涯スポーツの国際総合競技大会である。

競技は概ね30歳以上であれば誰でも参加でき、国内各地からの3万人に加え、世界150の国と地域から2万人の参加を目標としている。この総勢5万人の参加者数は、大会史上、最大規模であり、特に、海外からの参加者は、スポーツを楽しむだけでなく、開催地周辺の観光も大きな参加動機であることから、家族や友人を帯同することが多く、規模はさらに大きくなると見込んでいる。リピート参加が多いことや、参加者間の交流の場づくりが重要になるのも、この大会が持つ大きな特徴である。

また、第10回目の記念大会となる2021年の大会は、初のアジア開催、初の広域開催となる。もともと欧米や

オセアニアからの参加者は多いので、関西に近く、アクセスも良いアジアからの参加者を積極的に発掘していくこととしている。また、従前の一都市開催という枠にとられず、広域開催のスケールメリットを活かした大会づくりを進め、WMGの新たな歴史を創る画期的な大会の実現を目指している。

## 大会開催に向けた取り組み

2013年9月に、開催誘致に向けた準備を進めるため、関西広域連合は、関西経済連合会などとともに準備委員会を設置し、同年11月には、大会を主宰するスイスにある国際マスターズゲームズ協会との間で基本合意書を結び、関西での開催が正式に決定した。

さらに、2014年12月には、大会の準備を加速するため、国や関係団体の参画も得て、一般財団法人関西ワールドマスターズゲームズ2021組織委員会(組織委員会)を設立し、昨年10月には、実施する32競技55種目と開催地を発表した(図1参照)。

本年4月には、各府県政令市において、首長を会長とした実行委員会を立ち上げるなど、万全の体制で大会づくりを進めるため、スポーツ庁や日本体育協会などの

支援も得ながら、行政・経済界・関係団体が一丸となって準備を進めている。

組織委員会では、大会をスポーツ愛好者のための一過性のものに留めることなく、大会を通じて次世代にさまざまな成果を遺すため、WMG史上初めて、準備段階から能動的にレガシーの創出に取り組むこととし、組織委員会の専門委員会として「レガシー創出委員会」を設置した。この委員会で策定した基本構想を基に、組織委員会が自ら行う具体的なアクションの検討を行っているほか、実行委員会による取り組みや、地域の

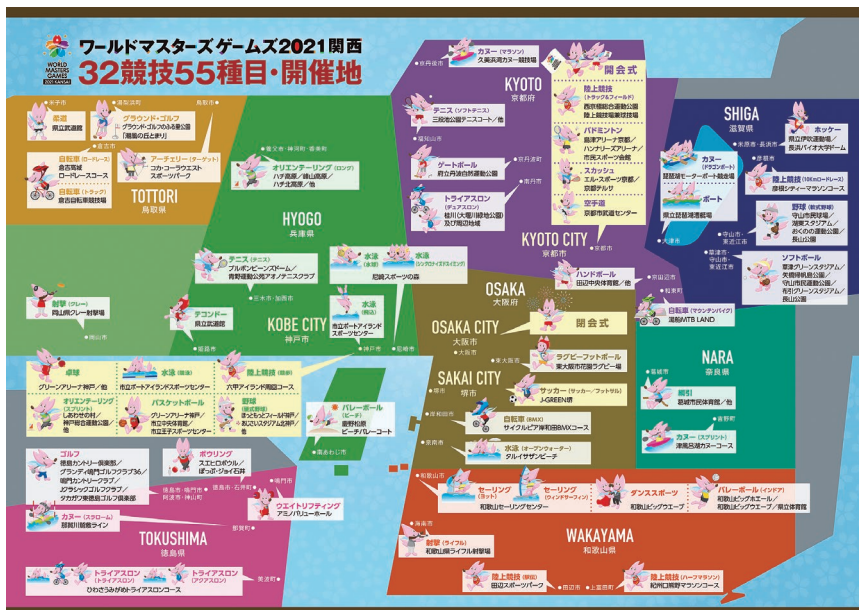
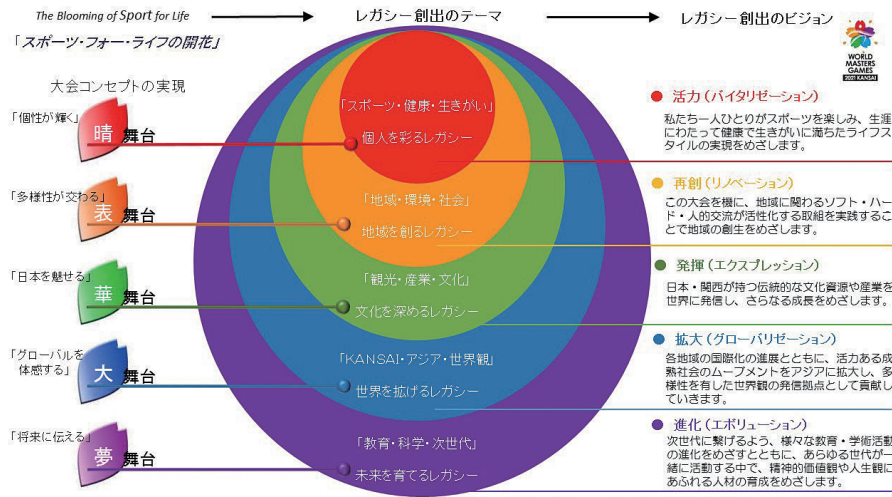


図1 関西大会競技開催地



PR ブースフォトパネル前



PR ブース前にてグラウンドゴルフを体験

### レガシー創出のテーマ

さまざまな組織や団体の主体的な参画を促す仕組みづくりについても協議を重ねている。

また、組織委員会では、年齢や性別、国籍や障がいの有無などに関係なく、さまざまな人々が、それぞれの個性に応じて、一緒に参加し、楽しみ、交流することができるインクルーシブな考え方を取り入れた大会づくりを目指し、有識者会議を設置して、スポーツを通じた共生社会の実現に寄与できる大会づくりへの取り組みも推進している。

## 2017年オークランド大会でのプロモーション活動

本年4月21日から30日まで開催された第9回オークランド大会には、大会運営や競技実施のノウハウの吸収と4年後の大会をPRするため、関西をはじめ日本から多くの関係者が現地を訪問した。

また、地元市民や全ての競技参加者が集う大会受付センター前には、大型PRブースを特設し、日本酒の試飲会や鳥取県発祥のグラウンド・ゴルフの体験コーナーとともに、2021年に実施する32競技55種目や関西・日本の魅力を紹介した。PRブースエリアには、延べ14万人以上の来場者数があり、大会マスコットの「スフラ」と笑顔で記念撮影を楽しむほか、「参加申し込みはいつから始まるのか」、「複数の競技に参加したいが会場間の移動方法は」などといった4年後の大会参加を前提とした具体的な質問や、関西・日本各地の観光地や食について熱心に尋ねる人も多く、現地の日本人会や日本人留学生の協力も得て対応した。

さらに、400人近い日本からの競技参加者の協力も得て、各競技会場においても2021年関西大会のPR活動を実施した。

## 2021年関西大会への思い

今回のオークランド大会では、スカッシュの元世界チャンピオンと関西大会の応援大使でもある武井壮さんが対戦、また、101歳の女性ランナーが競技会場内の大声援を受けながら、見事に100メートル走を完走した。試合の勝ち負けや記録を超越した感動や喜び、充足感、実際に大会に参加した人だけが手にすることができる栄誉であり、まさにWMGの醍醐味である。

2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックの翌年に開催されるワールドマスターズゲームズ2021関西。大規模な国際スポーツイベントが国内で3年連続開催される歴史的な偶然を最大限に活かして、本大会では、これら2大会と連携した有形無形の取り組みはもちろんのこと、2大会を「みる」ことで高まる人々のスポーツへの機運を、WMGの「する」スポーツへとつなぎ、わが国の生涯スポーツの転換点ともなるような大会づくりとともに、関西・日本ならではのおもてなしの心を添えて、世界の人々が感動と喜びを享受できる生涯スポーツの祭典を創出したい。

関西大会情報はコチラ

<http://kansai-wmg2021.org/index.html>

<http://www.facebook.com/wmg2021/>

## 数々のスポーツイベントを 成功させてきた街・神戸

神戸市では、ラグビーワールドカップ2019（ラグビーW杯）、東京2020オリンピック・パラリンピック（東京オリ・パラ）、ワールドマスターズゲームズ2021関西（WMG関西）と、3年連続で一大スポーツイベントが開催される。市では、「ゴールデン・スポーツイヤーズ」という希有な機会を最大限に活用し、神戸市民や神戸市を訪問する人々、さらには市外・海外に向けて、神戸の街の魅力を発信していきたい。

神戸といえば、山と海に囲まれたおしゃれな街というイメージを思い浮かべるかもしれないが、実は、日本で「マラソン」という名称が初めて使用された大会が開催されるなど、スポーツが盛んな街でもある。1985年ユニバーシアード神戸大会、1989年フェスピック神戸大会、2002年サッカーワールドカップなど、これまでに世界的なスポーツ大会を成功させてきた実績があり、スポーツ施設や選手・観客を受け入れる宿泊施設は既に整っている。そのため、WMGが掲げる「既存施設の最大限の活用」や「大会開催費用の縮減」という点において、神戸はうってつけの環境にある。

## ラグビーW杯や東京オリ・パラの 効果を活かして

WMG関西の成功のためには、PR活動が必要不可欠であるが、神戸市では、ゴールデン・スポーツイヤーズの各大会を一体的にPRする取り組みを行っている。

ラグビーW杯については、神戸市も開催都市の一つに選ばれており、神戸市御崎公園球技場で試合が開催されるため、現在、機運を盛り上げるためのプロモーション活動に取り組んでいるほか、神戸市に本拠地がある神戸製鋼コベルコスティーラーズ（ラグビーチーム）や日本ラグビーフットボール協会などと協力して、ラグビー競技そのものの普及啓発活動を実施している。

また、東京オリ・パラに向けては、神戸市での事前キャ

ンプ誘致に向けて、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る、国の「ホストタウン」制度に参画することで、誘致国との市民交流や、練習会場となるスポーツ施設の改修を実施する予定である。誘致国の選手や市民・青少年との交流事業により、神戸市民が誘致国を応援する土壌を作り、大会をより身近な存在に感じることができるような雰囲気を作ろうと努めている。

神戸市では、これらのゴールデン・スポーツイヤーズの各大会について、「国際スポーツ室」という部署が取りまとめの窓口となって、誘致国や関係部署の連絡調整を行っている。一つの窓口で取りまとめる体制を生かし、各大会を単独でPRするよりも、大会同士をお互いに関連付けてPRすることで、より効果的に各大会の認知度を向上することができる。



2017年5月20日 第47回神戸まつりでのPR活動

具体例を挙げると、毎年100万人以上の観客が訪れる神戸まつりにおいて、国際スポーツ室でブースを出展し、ラグビーW杯のチラシと合わせてWMG関西のチラシを配布するなど一体的にPR活動を行った。これにより、ラグビーW杯に興味がある人々に対して、WMG関西についての認知度を上げることができた。

このように、各大会に関するさまざまな活動に際して、折に触れて、それぞれの大会を一体的にPRし、それぞれの分野に興味がある人の気持ちを、他の分野にも向けてもらおうよう、今後も働きかけていきたい。

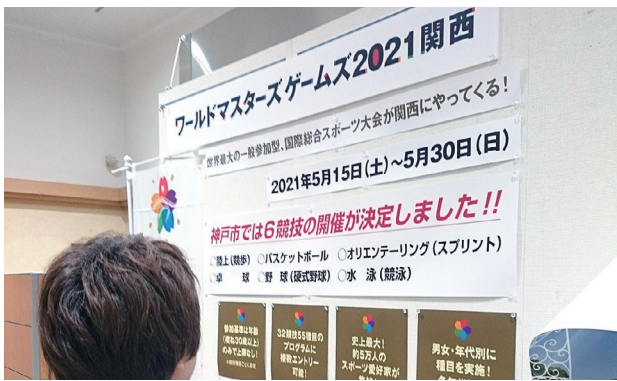
## 「みる」・「ささえる」から「する」へ

ラグビーW杯や東京オリ・パラがトップアスリートの競技を「みる」・「ささえる」ことが主体となるスポーツであるのに対して、WMGは、一般アスリートが「する」ことが主体となるスポーツである点で異なる。ラグビーW杯や東京オリ・パラを観て感動した人々が、今度は、自分自身が世界大会に参加できる機会を得ることができるのである。WMG関西開催は神戸市にとって、生涯スポーツを普及・振興させる契機となるだけでなく、観光や文化の活性化、海外における知名度の向上にもつながる絶好の機会となる。

2016年10月には、WMG関西の開催競技・種目の開催地が決定し、神戸市では、陸上（競歩）、バスケットボール、オリエンテーリング（スプリント）、卓球、野球（硬式野球）、水泳（競泳）の6競技が開催されることが決定した。

神戸市としては、まずはWMG関西に関する神戸市民の認知度を上げる取り組みを行っている。具体的には、市民の目に触れる場での展示や、神戸まつりのような多くの人が集まるイベントでのPR活動を実施している。

また、従来から実施している生涯スポーツ大会である「神戸市民体育大会」や「こうべ長寿祭」などについて、「関西マスターズスポーツフェスティバル」という名称をつけて実施するなど、随所でマスターズというフレーズを使用することで、市民に対する認知度を向上させるよう努めている。



神戸市に本店を置く「みなと銀行」の一角を借りたPR

その他にも、神戸市と姉妹都市提携しているオーストラリア・ブリスベン市にあるクイーンズランド大学ビジネススクールの研究者と2016年度から連携することが実現した。この研究者は、メガスポーツイベントが地

域にもたらす影響やレガシーの活用について、豊富な知見と研究実績を持っており、神戸の魅力発信と今後の取り組みについて、ともに検討を行っている。神戸の街が、WMG関西を通してどのように魅力を発信していくかを継続的に考えていきたい。

## 市民とともに作り上げる大会

オークランド大会には、神戸市および各競技団体より視察者を派遣し、大会運営等の取り組み状況を学んだ。神戸市で開催される競技を中心に調査を行ったが、いずれの会場も施設規模が大きく、のびのびとスポーツを行う環境が整っていたほか、大会への参加者を迎え入れる多くのボランティアの力がなくては、決して成り立たない大会であることを実感した。

神戸市で開催される6競技、さらには大会全体を成功させるためには、神戸市が主体となって積極的に推進することも必要であるが、何よりも地元競技団体の協力が不可欠である。日頃、スポーツ施設を使用している地元競技団体が主体となった競技運営を行うとともに、競技団体を通して多くのボランティアを輩出してもらわなければ、競技運営が成り立たない。

また、日頃、スポーツ施設を利用している市民の立場も十分考慮する必要があり、大会期間に施設利用を制限することで不満が生じるか、施設利用者を含む市民が一体となって大会を盛り上げられるかは、神戸市のこれからの取り組み次第である。

大会開催の4年前となる今から、競技団体の協力を得て、市民とともに大会を作り上げる機運を醸成していくことが求められている。

## 黄金の3年間の先へ

神戸市の目標は、ゴールドデン・スポーツイヤーズを無事に終了させるだけではない。ゴールドデン・スポーツイヤーズ後に、大会を契機にスポーツを始めた神戸市民が継続的にスポーツを行い、大会で注目を集めた競技の競技者人口がさらに伸びること、また、国内・国外からスポーツで神戸を訪れる人々が増えることが神戸市の目指すものである。

2021年まであと4年。WMG関西が、後世につながる大会となるように、神戸全体で着実に取り組みを積み重ねていきたい。